



# Cisco Vision Director でのバックアップの管理

このモジュールでは、次のトピックについて取り上げます。

- [バックアップに関する情報\( 287 ページ \)](#)
- [バックアップの管理法\( 288 ページ \)](#)
- [バックアップからの復元法\( 293 ページ \)](#)

## バックアップに関する情報

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [バックアップ環境\( 287 ページ \)](#)
- [バックアップすべきシステム データ\( 287 ページ \)](#)
- [バックアップを実行するタイミング\( 288 ページ \)](#)

## バックアップ環境

バックアップは単一の Cisco Vision Director サーバーのみが存在するネットワーク環境でも実行できますが、このマニュアルに記載されている推奨環境は仮想環境です。冗長環境では、プライマリ サーバーで Cisco Vision Director を実行し、同じサブネットに接続されたセカンダリ サーバーにプライマリ サーバーからのバックアップ データが保存されます。

バックアップ処理はスケジュール設定をする以外に、手動でも実行できます。バックアップが完了すると、Content Management System( CMS )は自動的に再起動します。

## バックアップすべきシステム データ

バックアップを必要とする Cisco Vision Director のエリアは複数存在します。バックアップ処理では、Cisco Vision Director サーバーの次のエリアがバックアップされます。

- Cisco Vision Director Content Management System( CMS )
- Cisco Vision Director データベース
- Cisco Vision Director システム コンフィギュレーション ファイル
- Content Integration データ
- ダイナミック メニュー ボードのデータ

**注意:** `/var/sv/pofp/raw` ディレクトリにある再生証明の raw データはバックアップされません。

- `/var/sv/pofp/data` ディレクトリ中の再生証明レポート データ

## バックアップを実行するタイミング

[Asset Library] のコンテンツ、[Devices]、[Script Management]、[Event Management]、[Designer] または [System Configuration] などのインターフェイスの項目を変更するたびに、手動バックアップを実行します。

注意:

1. 手動バックアップを開始する前に実行中のスクリプトを停止します。
2. バックアップ中にゲーム/イベントスクリプトは開始しないでください。
3. バックアップが完了するまで、Cisco Vision Dynamic Signage Director を操作しないでください。

## バックアップの管理法

このセクションは、次のトピックで構成されています。

- [バックアップ実行の前提条件\( 288 ページ\)](#)
- [バックアップ管理のベスト プラクティス\( 288 ページ\)](#)
- [定期バックアップのスケジュール設定\( 289 ページ\)](#)
- [手動操作によるバックアップの即時実行\( 289 ページ\)](#)
- [バックアップ完了の検証\( 290 ページ\)](#)
- [保持するバックアップ ファイル数の変更\( 293 ページ\)](#)

## バックアップ実行の前提条件

注:最初のサーバー設定の一環として、プライマリ サーバーとセカンダリ サーバーをバックアップ操作用に設定します。バックアップ用サーバーの設定に関する詳細については、『[Cisco Vision Administration Guide: Dynamic Signage Director](#)』を参照してください。

バックアップを実行する前に、次の条件を満たします。

- バックアップ アカウントがセカンダリ サーバーで有効になっている。
- プライマリ サーバーが自動バックアップと復元用に設定されている。

## バックアップ管理のベスト プラクティス

- ゲーム スクリプトの開始前には、手動システム バックアップを実行しておきます。
- すべてのコンポーネントをバックアップします( 強く推奨 )。
- 手動バックアップの開始前には、[Device Management] でアクティブなゲームやイベントスクリプトを停止させておきます。
- バックアップタスクは、イベントスクリプトの実行中でも実行できます。この変更に伴い、バックアップ処理中にはデータベースの最適化と修復は行われなくなったため、必要に応じてデータベース メンテナンスを手動実行するための新規オプションが TUI に追加されています。
- バックアップが完了するまで、Cisco Vision Director の [System Configuration] や [Device Management] を操作しないでください。

## 定期バックアップのスケジュール設定

ユーザー ロール: 管理者( Administrator )

バックアップ処理をサポートするようにサーバーを設定した後は、Cisco Vision Director ソフトウェアの [System Configuration] > > [Dashboard] を使用して、バックアップをスケジュール設定します。

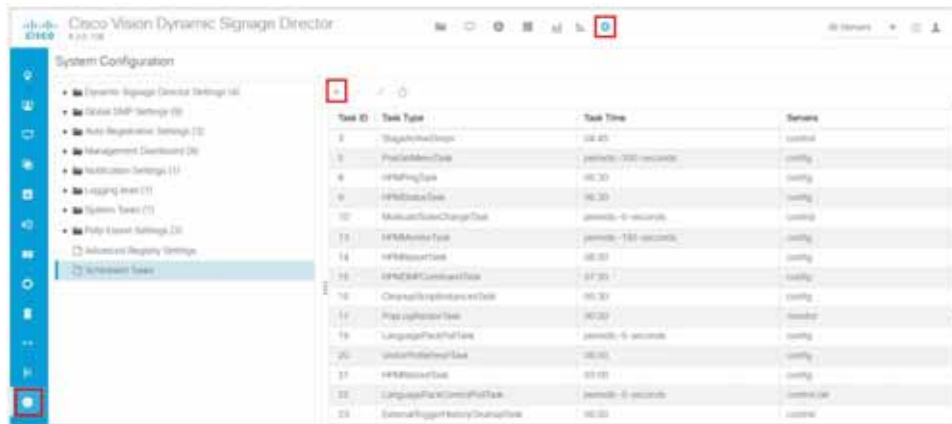
注: バックアップのスケジュールは、Cisco Vision Director サーバーがスクリプトをアクティブに実行していない時間帯や、その他のイベント処理を実行していない時間帯とすることをお勧めします。

バックアップの定期実行スケジュールを設定する手順は次のとおりです。

1. [Configuration] > [System Configuration] > [Configuration] > [Scheduled Tasks] をクリックします( 図 1( 289 ページ ) )。
2. [+ (Add)] をクリックします。[Schedule Task – Add] ダイアログボックスが表示されます。
3. [Task Type] フィールドをクリックし、「BackupTask」と入力します。

注: タスクの名前は、小文字と大文字の違いも含めて、表示どおりに入力してください。

図 1 定期バックアップタスクのスケジュール設定



4. [Task Time] フィールドをクリックし、バックアップを開始させる時刻を指定します( 24 時間形式 )。
5. [Severs] フィールドをクリックし、**config** をチェックします。
6. [保存( Save )] をクリックします。

## 手動操作によるバックアップの即時実行

ユーザー ロール: 管理者( Administrator )

バックアップをすぐに開始する場合は、バックアップ プロセスを手動で実行します。

バックアップを手動で開始してすぐに実行する手順は次のとおりです。

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Backup system data] を選択します( 図 2( 290 ページ ) )。

図 2 バックアップタスクの手動実行



4. 「Y」と入力します。

バックアップが即時に開始されます。完了すると、CMS は自動的に再起動します。

**重要:**「success」メッセージの表示は、バックアップ タスクが開始されたことを意味します。これはバックアップの完了を意味するものではありません。

## バックアップ完了の検証

ユーザー ロール: 管理者( Administrator )

バックアップが完了していたかを確認するには、バックアップ ファイルが存在しており、ログ ファイル中にエラーが記録されていないことを確認します。

## バックアップ ファイルが存在することの確認

**重要:**バックアップ ファイルが存在することの確認で分かるのは、バックアップ ファイルが試行されたということだけであり、エラーの有無については判断できません。

バックアップ ファイルが存在することを確認する手順は次のとおりです。

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Restore all system data from system backup] を選択します( [図 3\(291 ページ\)](#) )。
4. 日付と時刻付きでバックアップ ファイルが表示されることを確認します。

図 3 Restore all System Data from System Backup



## ログ ファイル中でのバックアップ エラーの特定

**重要:** メッセージ「Starting backup」と「Backup completed」は常にログに記録されるもので、バックアップの成否とは無関係であることに注意してください。

ログ ファイルには次のようにしてアクセスできます。

- テキストユーティリティ インターフェイス( Text Utility Interface: TUI )
- システム ステート レポート ( System State Report [More] > [System State Report] に移動します。
- `grep -i backup sv_dev_debug.log` を実行します( ルートへのアクセスが必要 )、[図 4 \(292 ページ\)](#)に、エラーが発生せず正常に行われたバックアップでのログ出力の例を示します。

ログ ファイル中のバックアップ エラーを探す手順は次のとおりです。

1. `/opt/sv/servers/config/logs/sv_dev_debug.log` ファイルを開きます。
2. `sv_dev_debug.log` ファイル中で、文字列「`com.cisco.sv.backup`」を含むメッセージを特定します。  
これらはバックアップ処理のメッセージです。
3. 「Starting backup」メッセージを検索します。
4. 「Starting backup」メッセージの後方( かつ「Backup completed」メッセージの手前 )にある「`com.cisco.sv.backup`」メッセージで、文字列中に「ERROR」を含むものを特定します。

こうしたエラーが存在する場合、バックアップは正常に完了していませんでした。



## 保持するバックアップ ファイル数の変更

ユーザー ロール: インストーラ( 管理者 )( Installer (Administrator) )

システムで必要とされるディスク ストレージ量を節約するため、デフォルトのバックアップ保持ポリシーでは、バックアップ ファイルを 1 つ保持するようにされています。この保持ポリシーで保持させるバックアップ ファイル数は、2、5、7、10 のいずれかに変更できます。

詳細については、『[Cisco Vision Administration Guide: Dynamic Signage Director](#)』を参照してください。

## バックアップからの復元法

プライマリとセカンダリ サーバーに自動バックアップと復元用の設定がされると、Cisco Vision Director ソフトウェアは自動的にバックアップ ファイルをプライマリとセカンダリ サーバー間でコピーします。

復元プロセスの開始後は、ファイルの MD5 チェックサムが確認されます。何らかの理由でサーバー間のファイル コピーを手動で実行する場合は、常に .tar と .chksum ファイルを両方ともコピーする必要がありますが、これは復元プロセスでの MD5 シグネチャの確認で両方のファイルが自動的に使用されるためです。

注: セカンダリサーバーにフェールオーバーし復元する必要がある場合は、『[Cisco Vision Administration Guide: Dynamic Signage Director](#)』の手順に従います。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [手動操作による復元の即時実行\( 293 ページ\)](#)
- [復元後の次の作業\( 294 ページ\)](#)
- [復元後の Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動\( 294 ページ\)](#) ( 必須 )

## 手動操作による復元の即時実行

ユーザー ロール: 管理者( Administrator )

復元プロセスは、バックアップと同様にスケジュールと手動での実行ができます。手動復元用の画面が表示されると、バックアップと復元用の両方のディレクトリを合わせたバックアップの一覧が表示されます。これらを使用してプライマリまたはセカンダリ サーバーでの手動復元を開始できます。

**注意:** イベントスクリプト実行中は、復元を開始できません。また、バックアップ実行時に施設でイベントスクリプトが実行されていた場合は、それらのスクリプトは復元の終了後に実行されます。

自動復元では、常に復元ディレクトリにある最新のバックアップ ファイルが使用されます。

復元を手動で開始してすぐに行う手順は次のとおりです。

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Setup automatic backup and restore] を選択します( [図 5\( 294 ページ\)](#) )。
4. 現在非アクティブなサーバーの IP アドレスを入力します。

図 5 復元タスクの手動実行



## 復元後の次の作業

復元が完了したら、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動します。詳細については、[復元後の Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動 \(294 ページ\)](#)を参照してください。

## 復元後の Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

ユーザー ロール: インストーラ( 管理者 )( Installer (Administrator) )

Cisco Vision Director サーバーで何らかの復元を実行した後は、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動して、サービスの通常オペレーションを再開させる必要があります。

TUI の使用に関する詳細については、『[Cisco Vision Administration Guide: Dynamic Signage Director](#)』の「[Cisco Vision Dynamic Signage Director Server Text Utility Interface](#)」モジュール( 89 ページ )を参照してください。

**Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動するには、次の手順を実行します。**

1. 有効なユーザー ID とパスワードを使用して、Director TUI にログインします。
2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
3. [Restart Dynamic Signage Director software] を選択します。